

創立10周年記念

「ふたがみまつり」・由利島紀行、歴史講演会など開催

二神系譜研究会創立10周年を記念して9月5日(日)、二神島で開催された「ふたがみまつり」には全国各地の会員を始め、神奈川大学日本常民文化研究所の調査団一行、二神島住民の方々を合わせて延べ50数名が参加しました。

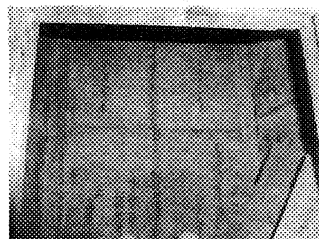
「ふたがみまつり」は由利島歴史紀行、二神島釣り大会、歴史講演会の三部構成で午前9時から始められ、昼食交流会、二神島ウオークを挟み午後3時半に由利島紀行第2団が帰港するまでの6時間余りにわたり諸行事が行われました。各行事の様子を報告します。

由利島紀行、種章の「荘官」文字を確認

「ふたがみまつり」のスタートは由利島歴史紀行から開始され、午前9時、二神博典船長の操縦する定員12名のプレジャーボートに、遠路から参加の希望者から乗船。二神英幸副船長のサポートで第1団が二神港を出港由利島を目指しました。これには一般参加の近藤義忠さん(77)も参加し、以前この島に住まわれていた時代を懐かしんでいました。



由利島南端



矢立大明神「荘官」文字

由利島歴史紀行第2団は歴史講演会が終了した直後の午後1時40分に出港。これには講演した石野弥栄先生や常民研の佐野賢治所長も乗船。案内には由利島に詳しい豊田渉常任理事が同行しました。由利島の港に着岸し上陸した一行は、安永4年に二神種章が再建奉納した由利島矢立大明神社を訪れ、舎内に墨書きされた「一建立願主二神嶋之住荘官 二神新四郎藤原種章 同二神藤治藤原種福」の文字を確認しました。種章が元文、明和の風早郡や松山藩からの由利島召し上げ事件に際し、自らを「荘官」と位置づけ反撃し勝利した事実を改めて確認しました。

歴史講演会

常民研、田上繁氏と
愛媛大、石野弥栄氏が講演

歴史講演会は午前11時から二神集会所に関係者42人が集まり豊田渉常任理事の司会で始まりしました。

始めに挨拶に立った二神俊一副会長は「本来ならばこの席に立って挨拶をするはずだった二神浩三会長が去る6月18日に急逝されました。この10周年記念行事をどれほど楽しみにされていたか・・・今もって残念でなりません。会長のご意志にこたえるためにも今後さらに会の発展をはからなければなりません」と述べました。

続いて来賓として出席された田中政利「しまはく」実行委員長は「この10年間の二神系譜研究会の活動は素晴らしいものがある。忽那文書は国の重要文化財になったが一族の系譜研究は進んでいない。今後とも二神会がリードしてお手本を示して欲しい」と挨拶されました。

講演会では、はじめに報告に立った神奈川大学日本常民文化研究所の田上〇氏は「二神文書目録の報告」と題して1.二神司郎家文書解明の進ちょく状況 2.新しい史料の発見 3.まとめ の3項目での報告を行いました。